

## 山陽小野田市ふるさと文化遺産

# 「山陽道」を登録しました

山陽小野田市ふるさと文化遺産は、地域の財産として親しまれ大切にされている文化的財産を再発見し、地域の歴史や風土に根ざしたストーリー性のある概念を登録するものです。これまでに「竜王山」「寝太郎」「小野田セメントと笠井家」「高泊開作」を登録しています。

【問い合わせ先】社会教育課 (☎ 82-1203)



## 「山陽道」の物語

※物語の詳しい内容は、市ホームページに掲載しています。

山陽道は、古来から様々な人・物・情報が行き交う大変重要な道でした。時代が変わる度にその姿を変え、今も当時の遺産が沿道に数多く残っています。古代から現代までの山陽道の歴史とともに、人々の生活にどのように関わってきたのかを紹介します。

### 山陽道の歴史 古代～中世～近世～現代

古代(奈良時代ごろ)では、中央と地方を結ぶ道ができ、交通体制の駅家等が整備され、山口県内の駅家では古代から「厚狭」「埴生」の地名だけが、現在まで使われています。中世(平安時代ごろ～安土桃山時代ごろ)では、武家政権が成立するなか、武士の往来が盛んとなり、道路の拡幅や一里塚の設置など本格的な整備が進みました。近世(江戸時代ごろ)では、西国大名の参勤交代に使われ、厚狭市には様々な種類の商店があり、街は賑わっていたようです。明治時代以降になると、人や物の移動手段は車や鉄道へと変わっていき、山陽道の利用も少なくなっていました。

### 有名人の旅日記に山陽小野田市が登場

山陽小野田市は山陽道上にあり、交通の要地であることから、歴史上の人物が数多く立ち寄り、旅日記等にその様子が記されています。戦国武将の中でも知名度の高い豊臣秀吉も厚狭市枝村家の沈流亭(ウォーキングMAP ⑦)に立ち寄ったとの説話が残されています。



### 歴史散策にでかけましょう！ ～①から③まで約5.4km, ③から⑥まで約5.5km～

市のスマイルエイジング(16ページ参照)の取り組みでは「まずは、毎日プラス10分、プラス1000歩、歩こう」を市民のチャレンジ目標としています。当時に思いを馳せながら、山陽道を歩きませんか。

【ウォーキングコース】①西見峠の道標「左旧山陽道」→②旧厚狭市の街並み→厚狭川を渡り広瀬から浴まで直線道→③七日町の分岐点→④山野井八幡宮→⑤蓮台寺峠を登る→⑥蓮台寺



※詳細な地図は市ホームページで公開しています。

